

二番手である事

2009年7月12日 アシェル・イントレーター師

ミニストリー(注)を行っている人生の大半、私は「二番手」として奉仕してきました。ベス・メサイヤ・コングリゲーションにおいてダン・ジャスター師のアシスタントとして5年間、あるクリスチャン高校においてツロウ・スウィツァー師の元で4年間、ネティヴヤにおいてジョー(ヨセフ)・シラム師のアシスタントとして4年間、メシニック・ジュイッシュ同盟においてイラン・ザイミル師の元で3年間、そして、ティフェレット・イエシュア・コングリゲーションにおいてアリ・ソーコラム師の元で4年間仕えました。私はフレデリック(訳者注:アメリカ合衆国メリーランド州にある街)にあるエル・シャダイ・コングリゲーションの主任指導者として奉仕し、そして現在エルサレムにあるリバイブ・イスラエルとアハヴァット・イエシュア・コングリゲーションの代表として奉仕しています。

注:ミニストリー (ministry):この言葉には、伝道、宣教、牧会、賛美、礼拝、慈善活動など、すべての神の御国の拡大に伴う活動が全部含まれており、日本語にあたる言葉がないため、そのままカタカナ表記しています。

預言者ダニエルはネブカデネザル王の元、主要な指導者でしたし、ヨセフはファラオの元、モルデカイはアハシュエロス王の元で指導者でした。彼らは二番手に留まっていたましたが、神の目からは真の指導者でした。ミニストリーにおいて二番手であることは聖書的なパターンであります。それは、イエシュア(イエス)も二番手であったからです。御父はより偉大(ヨハネ 14:28)であります。聖書においてイエシュアは神と人との間を取り持つ中心人物です。

監督 vs 実践

一番手は通常監督者として機能しますが、二番手は現場で活動を指導します。それはあたかもコーチとチームキャプテンのようです。キャプテンはコーチの権威の元プレイしますが、点を取るために指導します。監督する権威者および実践する指導者両方を兼ねることは難しく、それは、同時にヘッドコーチとチームキャプテンを務めるようなものです。リバイブ・イスラエルとアハヴァット・イエシュア・コングリゲーションでは、私はコーチとして務めようとしており、可能な限り私たちのチームメンバーに活動の中心を譲っています。

二番手であることによって品性が訓練されます。ヨシュアはモーセの元、総司令官として仕え、モーセが山の上に立ち両手を上げている間(出エジプト 17:10-11)、戦闘を指揮しました。私たちはこれを「別の人のビジョンに仕える」と呼びます。品性とカリスマは同時に成長します。二番手として仕えることは自身の謙遜さを常に確認するという祝福が加えられるのです。

荒野での40年間、ヨシュアに対してではなくモーセに対しつぶやきがわき上がりました。それゆえ、ヨシュアはアマレク人との戦闘に集中することができたのです。ヨシュアはまたモーセを内部からの苦情や分裂から守るという奉仕を行いました。

ある時、私たちはリバイブ・イスラエルにおいてある宣教師をお迎えしました。私たちの「運営部門」の指導者はそこにいて、私は不在でした。集会の誰かがその活動で気分を害し、私に怒りを向けました。私はその時不在でしたが、私はその怒りに対処しなければなりません。これが二番手に対する保護です。それは、苦情や怒りは一番手に向けられるからです。

二番手として奉仕するもう一つの恩恵は、神の御言葉や祈りに集中する時間が多く取れるということです。モーセが問題に対処しているので(出エジプト 18 章)、ヨシュアは主のご臨在を喜ぶ時間を多く取ることができたのです(出エジプト 33:11)。その後、ヨシュアは聖なる地を勝ち取る指導者となる神のご計画を成就させました。彼の活動はモーセに対する奉仕の継続と拡大でした(ヨシュア 1:2-8)。

サタン、アブシャロム、そしてヨアブ

二番手として奉仕するには危険な面もあります。大天使の一人として、ルシファー(ヒレル・ベン・シャハール(注))はミカエルやガブリエルと共に二番手として仕えました。その後プライドが忍び寄り、プライドが妬みを引き起こし、嫉みによって怒りを引き起こし、その怒りが反逆を引き起こしました(イザヤ 14、エゼキエル 28)。二番手として仕える時、毎日私たちは忍び寄る悪魔的な嫉みと怒りの思いに対して心を守らなければなりません。

(注:Hillel ben Shachar(ヒレル・ベン・シャハール)とは、ルシファーの別名で、「暁の子(息子)ヒレル」と言い、反逆によって天から追い出される前の大天使の名です。ヒレルは元はヘブライ語の「Helel:ヘレル」であり、(光る者)という意味です。また、ヒレル「Hillel」自体、ヘブライ語で「賛美、礼拝」という意味があります。) http://www.rakkav.com/qahal/pdfs/project_070911_01b.pdf(英文)より引用。

私たちは二つの面の一方で過ちを起こすことがあります。最初はダビデ王の息子アブシャロムです。彼は礼儀正しく、才能があり、魅力的でした。彼はダビデ王の指導に対して人々が不満をもちという自然な傾向を悪用し始めました。アブシャロムには人々と時間をより多く取ることができました。彼のその才能によって、ダビデから少しずつ人々の心を離れさせ、人々の忠誠を彼に集めることができました(II サムエル 15:1-6)。二番手としての私たちの役目は、トップリーダーに対する人々の忠誠心を守ることにあります。

もう一つの例はヨアブで、ダビデ王の偉大な将軍でした。彼は勝利者であり、自制心に富み、勇敢で妥協のない人でした。ダビデが宮殿で過ごし、姦淫を犯している間、彼は前線に留まっていました。しかし、ヨアブの力は最終的にダビデを裏切り、ダビデが指導者として立ち上げようとしている彼の周りにいる人々を傷つけました。憐れみの心を持つ人々はアブシャロムの霊性に対し、また、預言的な賜物を持つ人々はヨアブ・シンドロームに対して心を守らなければなりません。

虐待的なリーダーシップの元を離れる

二番手として仕えていると、時には指導者が虐待的になる場合があります。これは、サウル王の元でダビデに起こったことです。サウルは嫉妬するようになり、正気を失い、ダビデを攻撃し始めました。ダビデは忠誠を守り、従い続けようと努力しましたが、すべての試みは失敗しました。私たちは和解するためにすべての試みをするべきですが、決して破られることのない愛と契約的な真実に基づいた話し合いによって罪を指摘(マタイ 18 章の原則に基づいて)すべきであります。

それも失敗した場合、ダビデが行った次の事を行うことができます。1) 離れる。2) 指導者の名誉を守る。ある人々は虐待を受けていながらも指導者の元に留まる場合がありますが、それは誤りです。神はあなたが虐待されることを望まれません。識別力が必要です。時々、神は虐待的なリーダーシップの元に留まるように命じられますが、それは神の御国のより大いなる良きことのためです。もしそうであるならば、主は霊的にダメージを受けないように特別な恵みを下さいます。

ダビデが離れた時、分裂の元とならないように彼はある期間地理的に距離を置きました。彼は自分の命を危険にさらし、彼の部下たちの願いに反してまで、サウル王の名誉と地位を守るためにあらゆる努力を行いました。ダビデはいずれ王になると知っており、権威の正しい秩序のパターンを設定したいと思っていました。ダビデの例はトップリーダーが虐待的である場合どのようにして二番手の者が離れるのかという例を示しています。

イエシュアの足跡を辿って「二番手」として主に仕えましょう。私たちが団体のトップであったとしても、いずれにせよ私たちはすでに二番手にあり、心の中ではイエシュアの指導の元にあるのです。二番手として仕えることはイエシュアの御国のためにどの弟子でも多くの実を实らせる効果的かつ合理的な方法なのです。